

忠節畢。

是等次第賜御證判、爲備向後龜鏡、恐々言上如件。

應安二年十二月 日

(吉見氏頼) 承了 在判

(吉見伊豫入道及び左馬助の何人なりやは知る能はず。)

十二月。能登の士得田章房、能登・加賀・越中に於ける軍忠を具申して吉見氏頼の證判を求む。

【得田文書】

五五六

得田加賀介章房申軍忠事

右今年 應安

四月廿八日 桃井播州以下凶徒、亂入當國能州

之間、章房敢前馳參金丸城、屬于吉見左馬助殿御手、至

于六月一日連日致合戰忠節畢。

(吉見氏頼)

一、北國爲御退治御下向之處、桃井中務少輔已下凶徒、

加州平岡野陣取、依及富樫城難儀、同八月十五日御發向

之間、屬于吉見左馬助殿御手、於野々市日々夜々致合

戰畢。

一、同九月八日押寄平岡野陣致合戰、中務少輔已下凶徒等追落畢。

一、同十七日御敵引退越中國一乘之城間、御發向御追落畢。

一、同廿四日井口・千代様城責落畢。

一、同十月廿二日松藏城へ御發向之間御共仕、至于御歸國之期、抽忠勤畢。

一、同十二月廿八日楯籠山方六郎左衛門入道以下凶徒

若山庄山方城之間、馳向致合戰、同晦日彼城追落畢。此

等次第大將御見知之上者、下賜御證判、爲備龜鏡、恐々言

上如件。

上如件。

應安二年十二月 日

(吉見氏頼) 承了 在判

(前條得江季員の軍忠狀に據れば、桃井直和の軍は九月七日石川郡宮腰に攻寄せ、九日大野宿に退くとして地理相應せり。然るに本條八日に平岡野の直和を逐ふとするもの怪しむべし。)

正平廿五年

庚戌

建徳元年

九月廿二日

紀元二〇三〇

應安三年

京都

二月十八日。能登守護吉見氏頼、鹿島郡永光寺領羽咋郡湊保北方の寄進地に軍勢衆庶の亂入狼藉を停む。

【永光寺文書】 鹿島郡

五五七

能登國羽咋郡湊保北方内、田中田屋敷、同所松崎町田地、同所松本村内田地、同所惣相宮上田地、同所石町田屋敷、須賀小四郎入道性海、同次郎入道兼清、寄進之地等事、軍勢甲乙人等不可致亂入狼藉於之狀如件。

應安參年二月十八日

(吉見氏頼) 沙彌 在判

三月。能登の士得田章親、加賀・越中・能登に於ける軍忠を具申して吉見氏頼の證判を求む。

【得田文書】

五五八

得田十郎章親申軍忠事

右桃井播州以下凶徒等爲御退治、去年 應仁 六月廿九日大

將御進發之間、越前・加賀於所々、致路次警固候畢。

一、同九月七日御敵大野・宮腰打出之刻、大將御發向之間御共仕畢。然而凶徒、越中國楯籠蟹田一乘城之間御共仕

之處、同十七日夜令彼城沒落畢。同廿二日於井口城已下

抽忠節畢。同十月廿二日松倉城御發向之間、御共仕致合

戰之處、同十二月廿八日播州与類已下、當國能州若山庄

之内楯籠山方城之間、馳向彼城、兩三ヶ日致日夜合戰、

同晦日責落彼城畢。如此軍忠次第御見知之上者、下賜御

證判、爲備向後龜鏡、恐々言上如件。

應安三年三月 日

承了 在判

(この文書花押を載せざるも、吉見氏頼なるべし。)

九月十八日。後光嚴院、山城北野社の社家に、同社領羽咋郡菅原莊を舊の如く交付せしめ給ふ。

【北野神社古文書】 山城

五五九

能登國菅原莊、如元所被付社家也。可令領掌給之由、天氣所候也。仍上啓如件。